



三味線堀という名称は通称で、3条の堀を三味線の3本の弦に例えたという伝承があるようです。調査の結果、堀の深さは不明ですが、幅は約11mを測り、途中で南に屈曲していることが分かりました。



小田原城跡八幡山遺構群（第4次調査）調査概要

◇遺跡名 小田原城跡八幡山遺構群
(小田原市No. 7 7 遺跡)

◇時代 近代・中近世・弥生～古墳・縄文

◇調査期間 2008年5月19日～10月15日(予定)

◇発見遺構 (2008年9月末日現在)

近代 校舎煉瓦基礎・便所跡・水路・池

中近世 西曲輪西堀・三味線堀・本曲輪北堀・土塁状遺構・柱穴6・土坑1

弥生～古墳 竪穴住居4

◇出土遺物

近代 陶磁器類・煉瓦・瓦

中近世 かわらけ・陶磁器類・古銭

弥生～古墳 土師器・石製品

縄文 縄文土器

西曲輪西堀では最大幅4mの障子をもつ障子堀(堀底を削り出し、障壁を設けた堀)が確認されました。堀幅は最大23m、深さは約7mを測り、中世小田原城でも最大級の堀と考えられます。また、障子を一部改変する形で近代の石組の池が作られています。近現代の瓦や煉瓦のほか、中世の陶磁器類が出土しました。

本曲輪北堀は八幡山古郭の中心である本曲輪を巡る堀とされています。堀の西肩は確認できたものの、東肩は確認できていないため、かなり巨大な堀であった可能性があります。また、土塁と考えられる土層の堆積も確認されました。出土遺物は少ないながらも中世のかわらけ(素焼きの土器)が見つっています。



[小田原城跡八幡山遺構群(第4次調査)の調査成果]

◇調査区は伝承地名「西曲輪」に相当します。西曲輪西堀(幅23m、深さ約7m)、三味線堀(幅11m、深さ不明)、本曲輪北堀(幅・深さ共に不明、土塁の痕跡)といった絵図面で推定された堀が実際に確認されました。絵図面に記載された位置とほぼ同じ位置で見つかりましたが、堀の大きさは絵図面に描かれたもの以上と考えられます。

◇堀以外の中世の遺構は希薄です。しかしながら、中世に相当する出土遺物(かわらけ、瀬戸・美濃焼、常滑焼、備前焼、染付など)が少ないながらも出土していることから、該期に土地利用が行われていたことが予想されます。

◇弥生～古墳時代の竪穴住居が見ついていることから、中世以前に集落が展開していたことが分かります。縄文時代では縄文土器や黒曜石が出土していますが、遺構は少なく土地利用の痕跡を示すものはあまり見つかりません。

◇上記以外に大正3年時の校舎煉瓦基礎など近代の遺構が見つっています。牛乳瓶やインク瓶、瓦、煉瓦(「上敷面」の刻印あり)、なども出土し、近代の様相も注目できます。